

「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場から」

アラブ首長国連邦 ドバイ日本人学校 校長 和田 政男

目次

- ① ドバイとドバイ日本人学校の概況
- ② 学校の対応
- ③ 児童・生徒・職員の様子
- ④ 今後の課題と期待

①ドバイとドバイ日本人学校の概況

- UAE（アラブ首長国連邦）は7つの首長国からなる連邦国家です。首都はアブダビですが、UAEで最も人口が多い都市はドバイです。UAEにはドバイ日本人学校とアブダビ日本人学校の二つの日本人学校があります。
- 学校を管轄する役所としては、7つの首長国全体の教育を統括するUAE教育省と、ドバイの私立学校を統括するKHDAという役所（以後KHDAと表記）があり、ドバイ日本人学校は、日本の文部科学省が示す学習指導要領に沿った教育課程で運営しながらもKHDAの指導にも従いながら運営されております。
- 令和2年度のドバイ日本人学校は児童・生徒数が118名。
- 新型コロナウイルスの影響で十数名がドバイに来られず編入学を延期しており、令和元年度よりも10名ほど少ない人数でスタートいたしました。
- G1～G9の児童・生徒が学ぶ小中一貫の学校です。

- UAEの新型コロナウイルスの感染拡大状況は、1月末に最初の感染の報道がありました。3月初めごろから新規感染者が徐々に増え始め、本稿執筆時点では毎日800人以上の新規感染者がおり、未だにピークが見えません。
- 2月下旬に学校における集会等の禁止の通知に始まり、3月上旬に現地政府からの休校指示。
- 3月下旬から外出禁止となり職員の在宅勤務開始。
- 5月中旬時点では、日中の外出に許可証は必要なくなりましたが、オンラインでの在宅学習、在宅勤務が続いている状態です。

② 学校の対応

- 2/28 学校における集会等の禁止 (KHDA)
- これを受けて、3/12実施予定の修了式を学級毎に、3/11実施予定の卒業式を卒業生とその保護者、職員のみで縮小開催することを決定。
- 3/3夜 UAE教育省は全国の学校に対し、3/8～4週間休校（3週目からはDistance Learningを始めること）の指示。これを受け、卒業式、修了式・離任式を3/5に期日を早めて実施した。
- 春休み中 休校の延長が長引くことを想定し、Distance Learningの準備を職員に指示する。同時に、登校できない場合であっても予定通り4/12に始業式、4/13に入学式を行うことを決定。Distance Learningは様々試した結果、Microsoft Teamsを使うことを決定し、家庭用簡易マニュアルの作成、全校生徒のID、パスワードの準備等、教務部を中心に準備を進める。
- 3/30 保護者への一斉送信メールにて、オンラインでの始業式、入学式の案内をし、Distance LearningのID、パスワードの配布、接続テストの案内をする。
- 3/30 UAE教育省は全国の学校に対し、6月末まで（日本人学校は一学期間全て）、Distance Learningを行い、そのまま夏休みに入ることを指示。

- 4/2, 5, 8 Teamsによるオンライン職員会議。日本に居る新派遣者も参加。
- 4/8 「Distance Learningの手引き」配布
- 4/9 学級毎に接続テスト。
- 4/12 オンラインでの始業式をクラスごとに実施。この日からオンラインでの授業開始。
- 4/13 オンラインでの入学式。G1とG7を時間をずらして行う。パソコンの前で、服装を正し、姿勢を正し、緊張感をもって行うことができた。パソコン画面のスクリーンショットを編集した集合写真は好評であった。
- 4/15 全校生徒、職員による接続テストを兼ねた全校朝会。総勢140名ほどが各自の端末のマイク、カメラを切ることで、校長の話などをクリアに聴くことができた。
- 4/16 オンラインでの保護者アンケート1回目（Distance Learningについて）
- 4/19 新任職員紹介式。日本に居る新派遣教員5名の紹介式。
- 4/22, 23 オンラインでの保護者学級懇談会。
- 4/24 それまで配布を禁じられていた教科書を、許可を得て職員が手分けして配達し、子どもたちの手元に届けることが出来た。
- 4/30 オンラインでの保護者アンケート2回目（Distance Learningについて）。

- 5/6 アンケート結果を反映した「Distance Learningの手引き（第2版）」配布。
- 5/6～12 オンライン保護者個別面談。
- 5/19 ゲストティーチャー6名を招いての，オンラインによる「キャリア・レクチャー」を実施。
- 6/1 KHDAによるDistance Learningに係る査察が行われる予定。

③ 児童・生徒・職員の様子

- Distance Learningが始まって6週間が経過した今日まで、職員会議や校内研究会、分掌部会等の打合せも在宅勤務のまま、オンラインではあるが、通常通り行っている。
- 毎朝7:30にオンラインでの職員打ち合わせに始まり、朝の会、朝読書、小学部45分、中学部50分で、昼食をはさむ、一日5時間の授業、帰りの会、職員終会と、ほぼ通常の日課とおりの時程で運営されている。
- 各学級では毎週「学級だより」を発行し、学級の役割分担や児童・生徒の目標紹介、毎日の学習の様子、翌週の時間割等を知らせている。
- 各クラスの教科係は、教科の先生と連絡を取り、毎日クラスの投稿欄に課題や翌日の授業連絡をしている。
- 「ドバイタイム」と呼んでいる「業間の休み時間」には、先生も一緒になり「おしゃべりタイム」に興じている。
- Teams内には、オンライン保健室が設けられ、オンライン学習による目の疲れを癒す体操などを紹介したり、新型ウィルスに関する情報を提供したり、各種相談を受け付けられるようにしている。

- 英会話とアラビックの先生達は、Teams内に英語やアラビックの子供向けLibraryを作っている。
- G9の生徒たちが、全校児童・生徒に元気を届けたいと、「手洗いダンス」をリレーでつなぎ、動画をTeams上にアップした。
- Teams内にはPTA役員のチームも作られ、オンラインでのPTA総会や役員会も行われ、PTA活動もスタートしている。
- ゲストティーチャーを招き、オンラインで行う「キャリア・レクチャー」も、とてもスムーズに実施でき、ゲストティーチャーの方々からも好評であった。
- このように、手探りで始めたDistance Learningは、先生方、生徒達のアイデアと努力で、当初想定したよりも上手く運用できていると評価しております。保護者アンケートはすでに2回行っておりますが、そこで出された事項は、改善点として整理され、対策が施されるようにしています。保護者アンケートには、「兄弟が通っている他のインター校よりも日本人学校のオンライン学習の方が優れている」との嬉しいコメントも複数頂戴しております。

④ 今後の課題と期待

- 5月初旬、KHDAより「Distance Learningについての査察を行う」との連絡が入りました。通常、12月～2月の3日間、8名ほどの査察官が学校を訪問し、徹底的に行われる査察が、今回、Distance Learningについてもオンラインでの査察が臨時に行われるということです。
- つい先日のニュースでは、休校措置は来学期も続く可能性があるという報道がなされました。
- 中学部の定期考査を学校で、密を避けながら行うことができないかをKHDAに相談中であり、学習の評価・評定をどのようにするか、検討中です。

- 職員の熱意で、苦勞して作り上げ、今のところ高評価を得ている本校のDistance Learningですが、長期化することで様々な課題や困難点が明らかになってくると思われます。
- 学校は子どもたちが集団生活の中で学ぶ場です。外出できず、実際のふれあいなしに続けられるDistance Learningでは、学校教育がめざすもののいくつかが欠落していることは明白です。
- 一日も早く学校が再開し、かつての日常が戻ることを祈念しつつ、ここで頑張って作り上げたいいくつかの手法が、今後、私たちの学校の大きな力となり、学校を発展させるものと信じ、職員一同前向きに頑張っております。